

大会宣言

競争社会の負の遺産である貧困・格差がいまだ日本全体を広く覆い、社会的なセーフティーネットの修復もこれからというとき、多くの生命を奪った「3・11 東日本大震災」と原発事故という二重・三重の危機が私たちを襲うなかで、本大会は開催されました。震災と放射線による健康被害は、生活環境や産業・経済・雇用はもとより、子どもたちや教育活動にも深刻な影響を及ぼしています。

震災後、人のつながりや連帯・共助の輪が広がっています。日教組も震災カンパ活動やボランティア活動等を展開してきました。復興の基盤は教育にあります。しかし、その道のりは遠く、子どもの心のケア・学習支援にかかわる教職員加配や「生きる力」を育む防災・減災教育等のとりくみを着実にすすめていかなければなりません。

一方、学校現場では、いじめや不登校、自死、虐待など子どもたちをとりまく課題や教職員の精神疾患による病気休職、定年前退職など、健康権にかかわる課題が山積しています。私たちは引き続き、子ども一人ひとりに寄り添った教育をすすめるとともに、教職員に時間的・経済的負担を課す免許更新制の早期廃止や序列化・過度な競争が危惧される学力調査の抜本的見直しを求めていく必要があります。また、教職員が仕事と生活を両立できる人間らしい働き方を実現するための実効ある超勤解消策、メンタルヘルス・労働安全衛生体制などの確立を求めていきましょう。

被災した子どもたちをはじめすべての子どもに教育の機会を保障するため、貧困の再生産・連鎖を断ち切り、教育と福祉を融合させる「教育福祉 (Edufare)」社会の実現をめざします。

今大会で報告された被災地の訴えと決定された方針をもとに、職場でつながる、地域でつながる、希望をつなぐ連帯のとりくみを強化しましょう。保護者や地域住民、教育関係者等との社会的対話を広げ、すべての子どもにゆたかな学びを保障する運動を強力にすすめましょう。

以上、宣言します。

2011年7月6日
日本教職員組合第99回定期大会